

#### 4. 管理職向質問紙調査結果

##### <質問紙調査概要>

- ・実施日 2017年3月
- ・対象者 愛知県内公立高等学校 165校  
校長・副校長・教頭など各校1名
- ・調査法 郵送による質問紙調査
- ・回答者 57名(校)

##### <質問項目>

###### 1. 回答者の種別

学 校 長 ・ 副 校 長 ・ 教 頭 ・ その他 ( \_\_\_\_\_ )

###### 2. 教師として身につけるべき資質・能力について

次の1)~3)の3つの視点から、a~qの資質・能力等について、5段階で回答してください。

###### 1) 【教員一般に求められる資質・能力として重要か】

各資質・能力は、教員一般に求められる資質能力として、どの程度重要ですか??

- 5 特に重要である、4 かなり重要である、
- 3 重要である、2それほど重要ではない、
- 1 重要でない

###### 2) 【名古屋大学として重視すべきか】

研究総合大学の強みを生かした教員養成として、特に名古屋大学が、どの程度重視すべきと考えますか?

- 5 重視する必要がある、4 どちらかといえば重視する必要がある、
- 3 どちらともいえない、2 どちらかといえば重視する必要はない、
- 1 重視する必要はない

###### 3) 【名古屋大学出身者の習得の程度は】

名古屋大学出身者について、どの程度習得ができていると思いますか?\_

※特定の個人についてではなく、一般的にお答えください。

- 5 十分である、4 どちらかといえば十分である、3 どちらともいえない、
- 2 どちらかといえば不十分である、1 不十分である     0 不明

		1) 教員一般に 重要か	2) 特に名大が 重視すべきか	3) 名大出身者の 習得の程度は？
a	取得する免許の学校種・教科の内容に関する知識（例：高等学校の数学の内容）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
b	教育学や心理学の基礎知識 （主として教職に関する科目の内容）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
c	教科の指導法に関する具体的な実践力（話し方・説明・発問・板書などのスキル）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
d	教科内容に関する知識と、教職に関する知識を関連付けた、授業の構想力（単元構成・教材研究・発問構成・板書計画・指導案作成など）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
e	生徒指導・進路指導・特別活動・道徳・学級経営などに関する指導力	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
f	免許教科に対応する学問に関する高度な知識（各専門学部での授業内容）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
g	各専門領域に応じた研究方法（学問的な見方・考え方、データ収集、分析、報告等）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
h	大学で身につけた高度な知識・研究方法の教育実践への応用力	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
i	個々の生徒の内面を理解する力	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
j	家庭や地域との連携した教育実践の展開 （地域社会のニーズに対応した教育を含む）	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
k	教育の目的や人間の発達や学習の本質に対する洞察	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
l	学校や教育を取り巻く社会事象に対する考察	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
m	高度専門職として学び続ける意志	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
n	学校を基礎とした教育実践研究（授業研究・カリキュラム開発）をリードする力	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
o	今日的に求められている教育課題に対する先導的な挑戦	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
p	生徒・保護者・地域の多様なニーズにきめ細かく対応した教育実践の創造力	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0
q	公教育を担う高度専門職としての職業倫理に基づく社会的責任	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1・0

### 3. 名古屋大学の教職課程の充実・改善のための意見（自由記述）

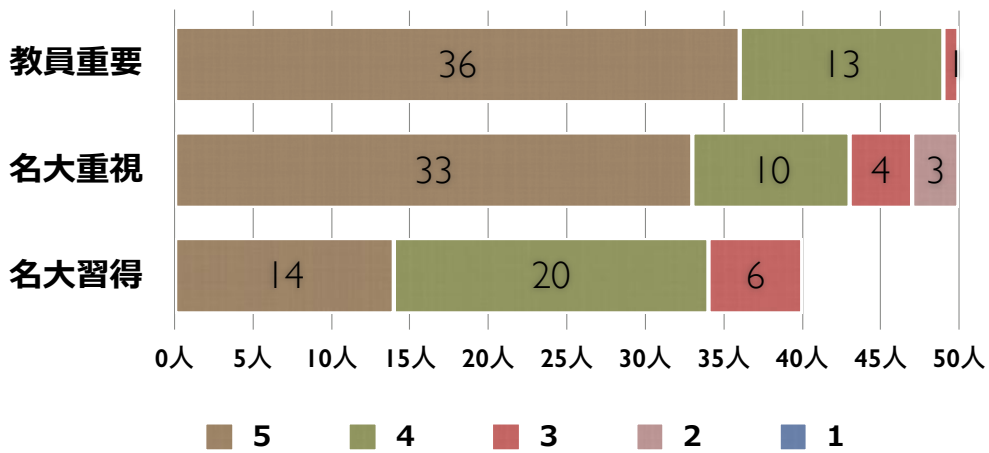
<回答者>

校長 30名、 教頭 27名、 その他 0名

<資質・能力>

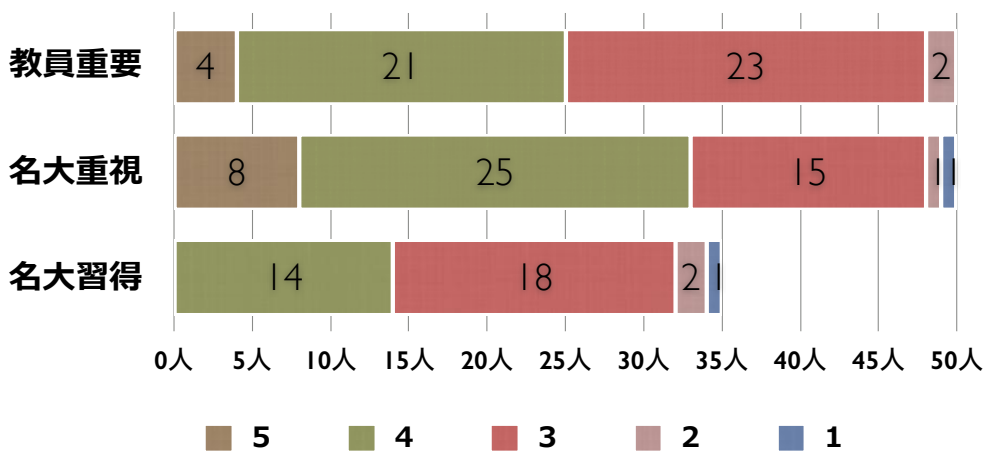
管理職（公立高校）アンケート調査結果

a 取得する免許の学校種・教科の内容に関する知識  
(例：高等学校の数学の内容)



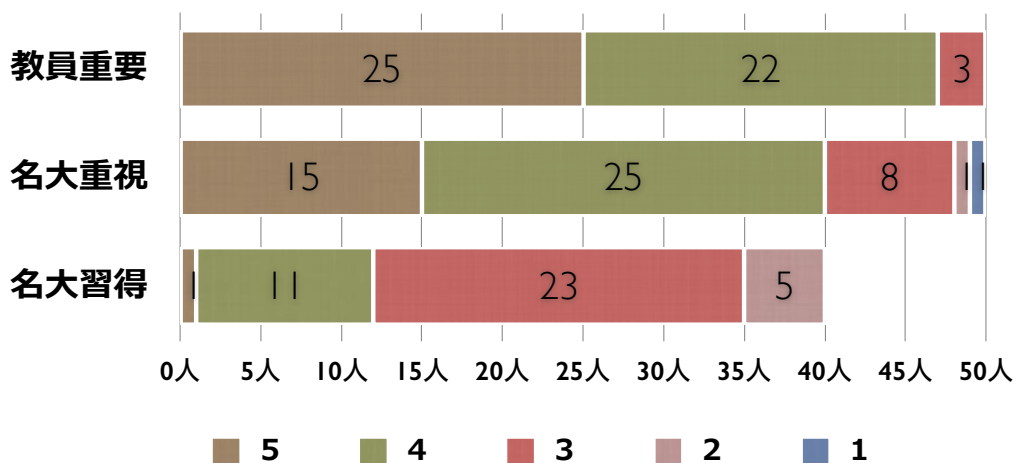
管理職（公立高校）アンケート調査結果

b 教育学や心理学の基礎知識  
(主として教職に関する科目の内容)



管理職（公立高校）アンケート調査結果

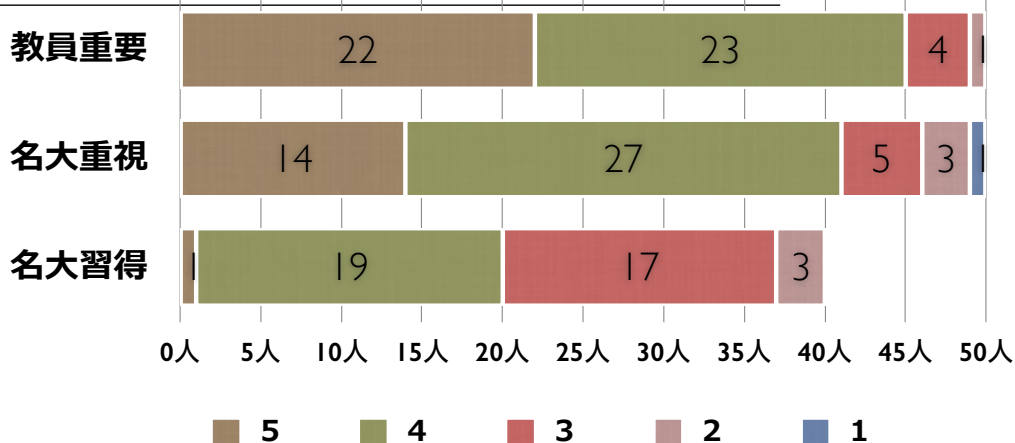
c 教科の指導法に関する具体的な実践力  
(話し方・説明・発問・板書などのスキル)



管理職（公立高校）アンケート調査結果

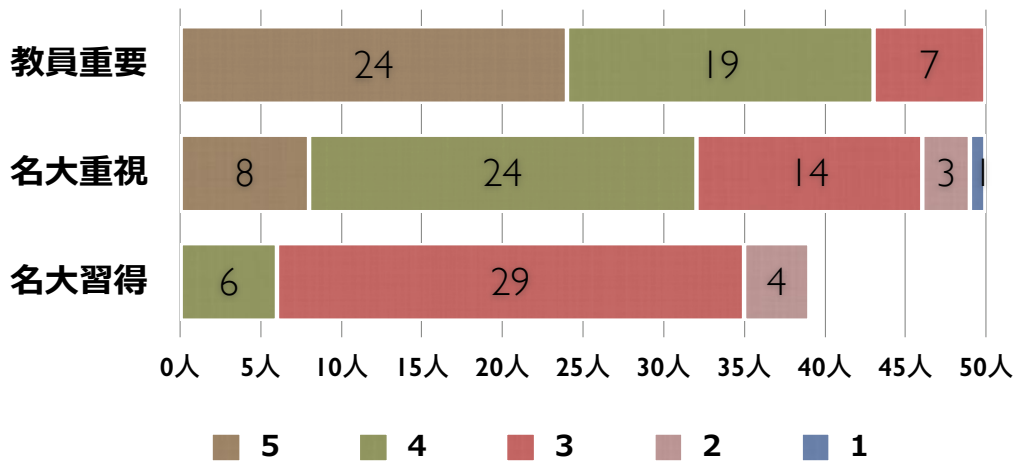
d 教科内容に関する知識と、教職に関する知識を関連付けた、  
授業の構想力

(単元構成・教材研究・発問構成・板書計画・指導案作成など)



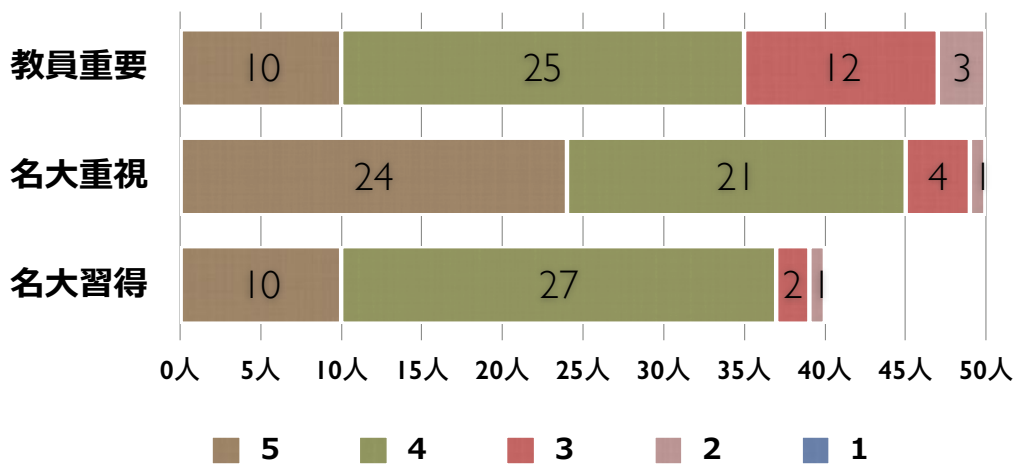
管理職（公立高校）アンケート調査結果

e 生徒指導・進路指導・特別活動・  
道徳・学級経営などに関する指導力



管理職（公立高校）アンケート調査結果

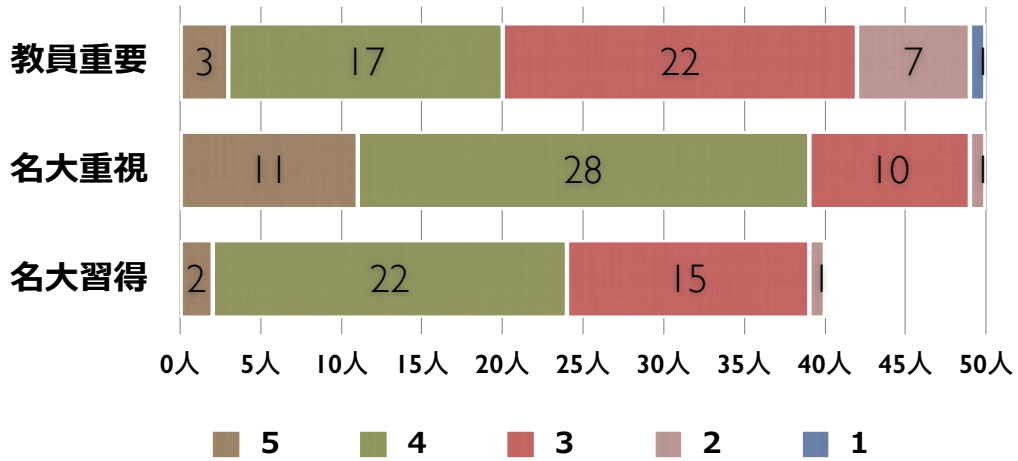
f 免許教科に対応する学問に関する高度な知識  
(各専門学部での授業内容)



管理職（公立高校）アンケート調査結果

g 各専門領域に応じた研究方法

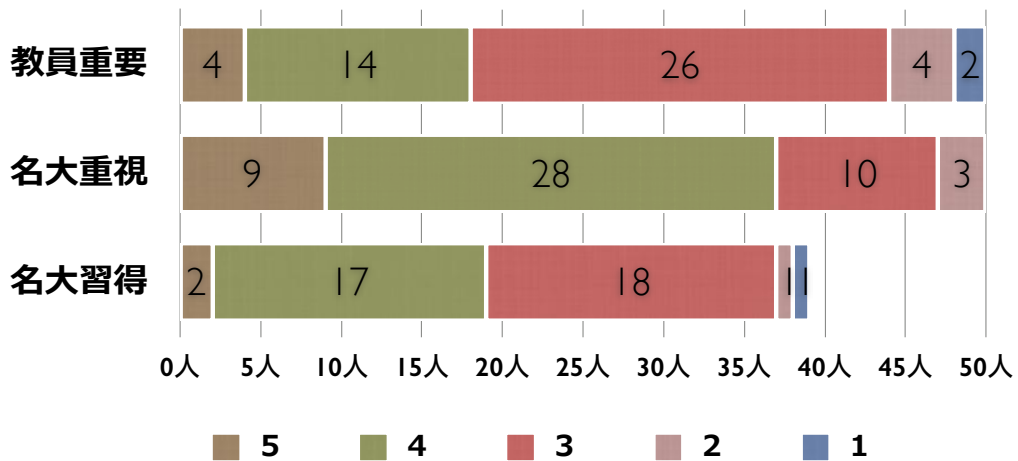
（学問的な見方・考え方、データ収集、分析、報告等）



管理職（公立高校）アンケート調査結果

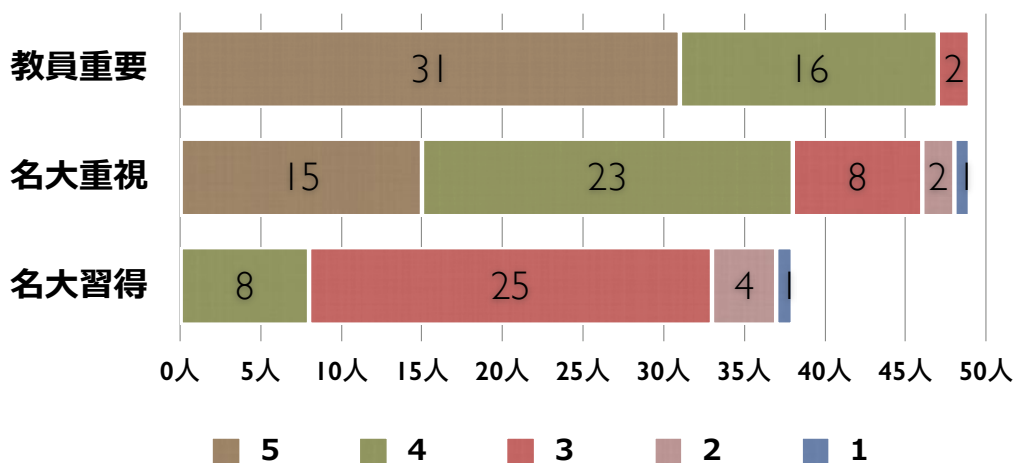
h 大学で身につけた高度な知識・研究方法の

教育実践への応用力



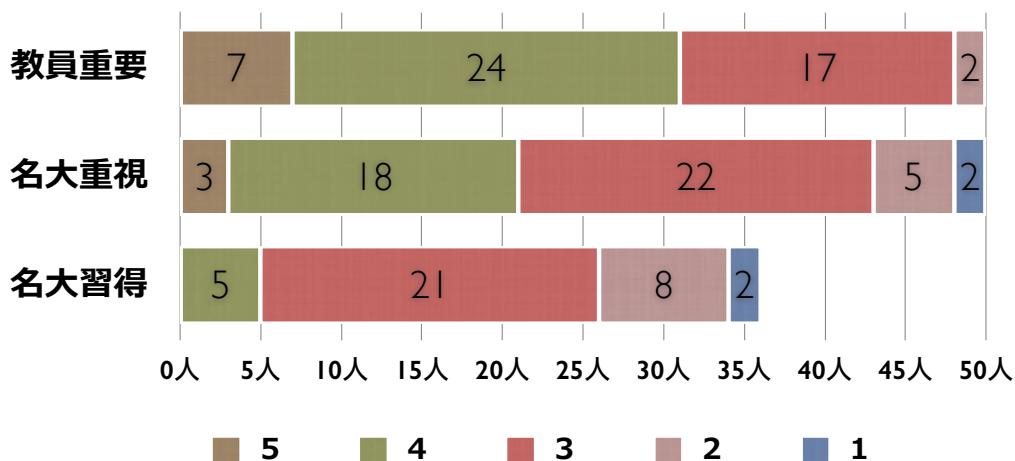
管理職（公立高校）アンケート調査結果

i 個々の生徒の内面を理解する力



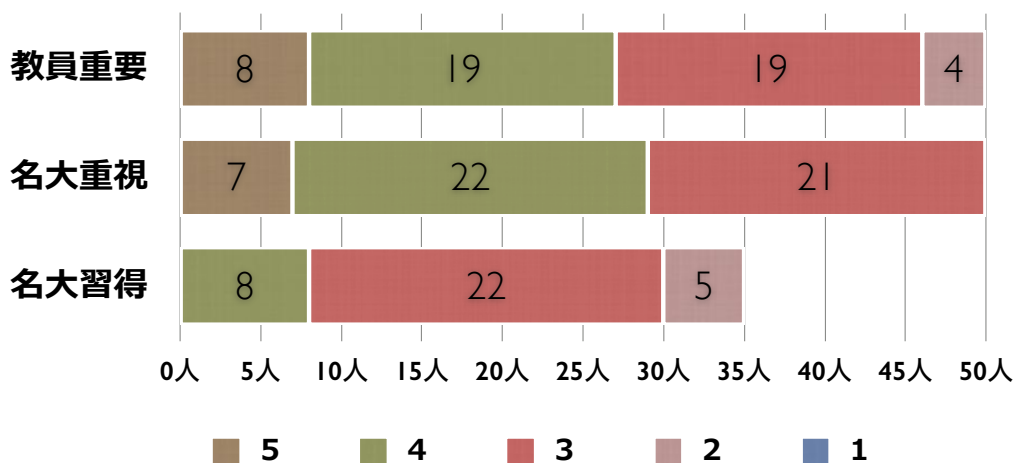
管理職（公立高校）アンケート調査結果

j 家庭や地域と連携した教育実践の展開  
(地域社会のニーズに対応した教育を含む)



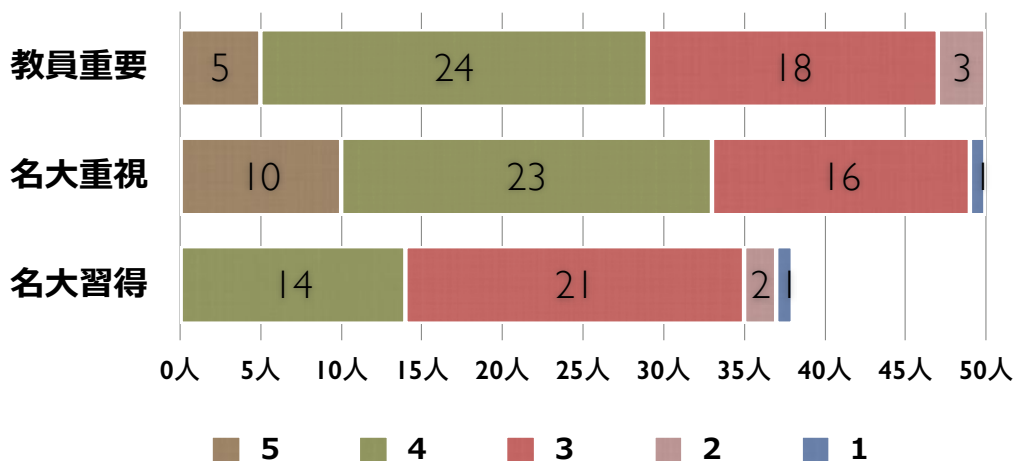
管理職（公立高校）アンケート調査結果

**k 教育の目的や人間の発達や学習の本質に対する洞察**



管理職（公立高校）アンケート調査結果

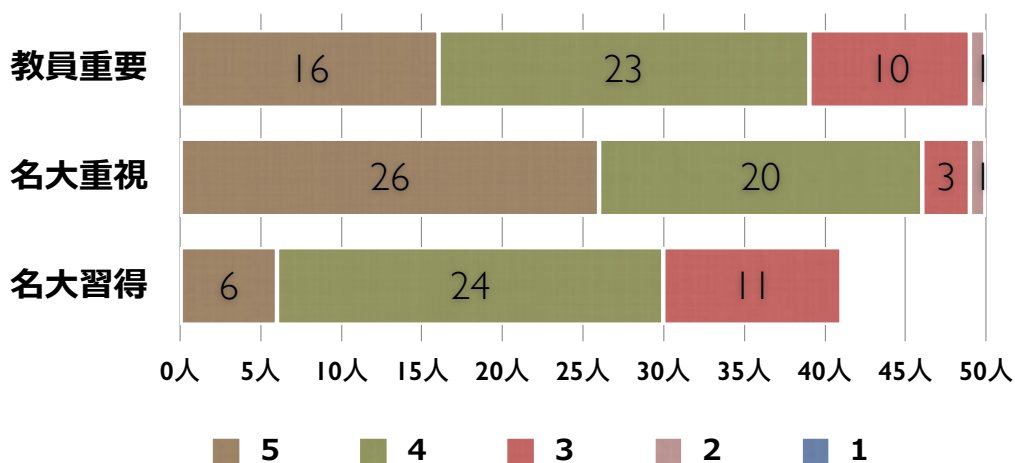
**l 学校や教育を取り巻く社会事象に対する考察**





管理職（公立高校）アンケート調査結果

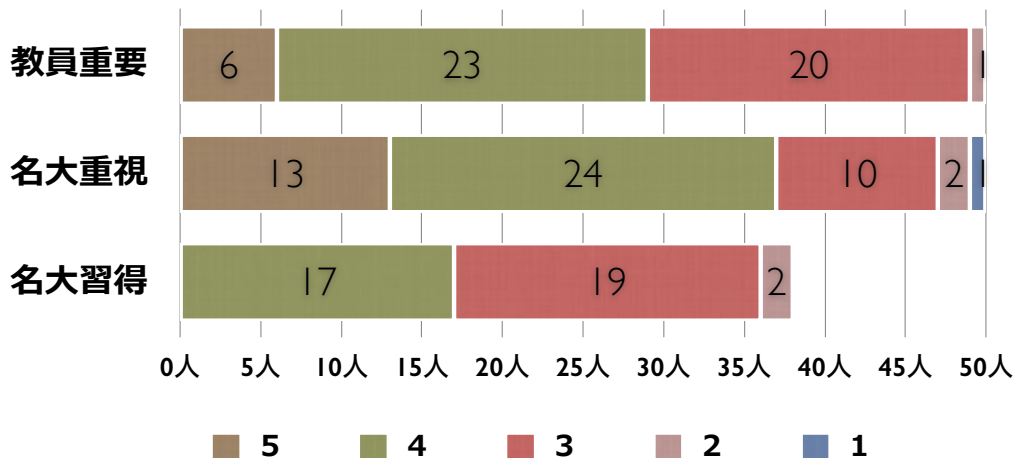
m 高度専門職として学び続ける意志



管理職（公立高校）アンケート調査結果

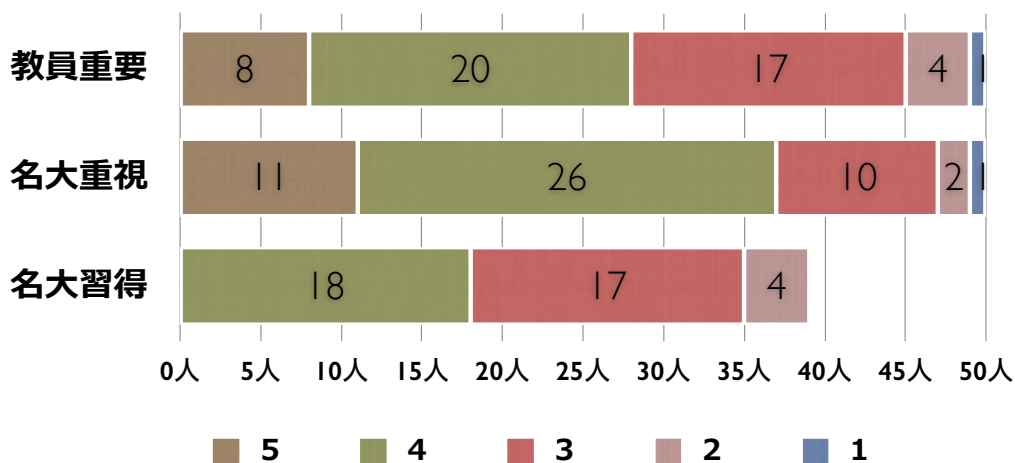
n 学校を基礎とした

教育実践研究（授業研究・カリキュラム開発）をリードする力



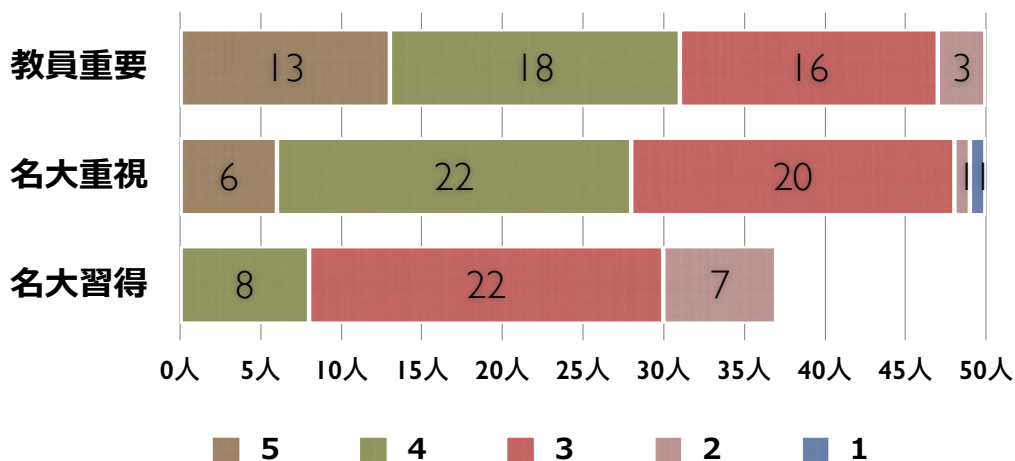
管理職（公立高校）アンケート調査結果

o 今日的に求められている教育課題に対する先導的な挑戦

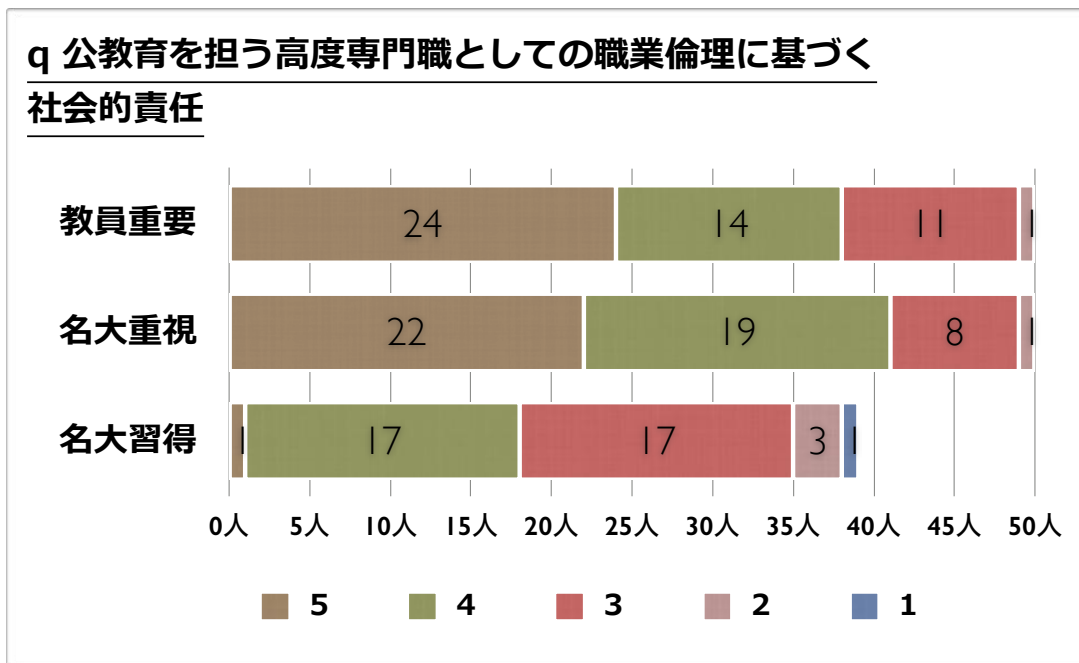


管理職（公立高校）アンケート調査結果

p 生徒・保護者・地域の多様なニーズに  
きめ細かく対応した教育実践の創造力



管理職（公立高校）アンケート調査結果



ここにあげた、a から q の資質・能力は、管理職向け調査と、学生向け調査で共通したものである。それぞれの能力について、3つの観点から評価を求めた。

【教員一般に求められる資質・能力として重要か】

【名古屋大学として重視すべきか】

【名古屋大学出身者の習得の程度は】

次頁の表は、各資質・能力の3つの観点ごとに平均を求めたものである。3つの観点ごとに、それぞれの上位・下位項目5つずつには印をつけている。

名大として重視すべきとされた上位5項目のうち、a 「教科の内容に関する知識」、f 「教科に対応する学問の高度な知識」については、相対的に習得の程度も高いと評価されている。一方、c 「教科の実践力」、q 「高度専門職としての社会的責任」は期待が高いわりには、習得の程度は低くなっている。また、教員一般に求められる資質・能力の上位2位の i 「生徒を理解する力」が、習得では下位5位にとどまっている。

なお、教員一般に求められる資質・能力の上位4位である e 「生徒指導などに関する指導力」は、名大として重視すべきかにおいては下位3位である点が特筆される。

		教員重視	名大重視	名大習得
a	取得する免許の学校種・教科の内容に関する知識（例：高等学校の数学の内容）	<u>4.70</u>	<u>4.46</u>	<u>3.36</u>
b	教育学や心理学の基礎知識（主として教職に関する科目の内容）	3.54	3.76	2.30
c	教科の指導法に関する具体的な実践力（話し方・説明・発問・板書などのスキル）	<u>4.44</u>	<u>4.04</u>	2.56
d	教科内容に関する知識と、教職に関する知識を関連付けた、授業の構想力（単元構成・教材研究・発問構成・板書計画・指導案作成など）	<u>4.32</u>	4.00	<u>2.76</u>
e	生徒指導・進路指導・特別活動・道徳・学級経営などに関する指導力	<u>4.34</u>	3.70	2.38
f	免許教科に対応する学問に関する高度な知識（各専門学部での授業内容）	3.84	<u>4.36</u>	<u>3.32</u>
g	各専門領域に応じた研究方法（学問的な見方・考え方、データ収集、分析、報告等）	3.28	3.98	<u>2.90</u>
h	大学で身につけた高度な知識・研究方法の教育実践への応用力	3.28	3.86	2.70
i	個々の生徒の内面を理解する力	<u>4.59</u>	4.00	2.37
j	家庭や地域との連携した教育実践の展開（地域社会のニーズに対応した教育を含む）	3.72	3.30	2.02
k	教育の目的や人間の発達や学習の本質に対する洞察	3.62	3.72	2.16
l	学校や教育を取り巻く社会事象に対する考察	3.62	3.82	2.48
m	高度専門職として学び続ける意志	4.08	<u>4.42</u>	<u>3.18</u>
n	学校を基礎とした教育実践研究（授業研究・カリキュラム開発）をリードする力	3.68	3.92	2.58
o	今日的に求められている教育課題に対する先導的な挑戦	3.60	3.88	2.62
p	生徒・保護者・地域の多様なニーズにきめ細かく対応した教育実践の創造力	3.82	3.62	2.24
q	公教育を担う高度専門職としての職業倫理に基づく社会的責任	4.22	<u>4.24</u>	2.62

上位5項目に二重下線

下位5項目に網掛

<名大教職課程の改善や期待について（自由記述より抜粋）>

<評価>

（強み）

- ・各教科の専門的内容の教育は申し分ない。
- ・一般的に学力が高く、業務内容を理解し、処理していく能力は高い印象。
- ・青年心理などを理論的に学び、実際の生徒指導に応用できた面は多々ある。教員としての素養につながっている。（卒業生）

（弱み）

- ・教科指導法は不足している部分もある。ファシリテーション能力やプレゼンテーション能力など、これまでとは異なった力が求められる。
- ・名古屋大学出身者はプライドをもって仕事をされているが、家庭や学力の低い生徒の対応時にそのプライドが足枷になることがある。
- ・「地元のエリート」であるため、社会人・教員としての謙虚な姿勢になれるかが重要。
- ・手を汚すことを嫌う。
- ・生徒に相対する情熱や、生徒理解に立つ指導力などは、無意識に「名大生」に期待するレベルからするとやや物足りない。
- ・教師としての熱意・意欲、リーダーシップ、指導力の面で弱い。
- ・優秀な人材も多いが、玉石混交の状況も見られる。教科の知識には高度なものがあるが、「教員」としての力は、その他の人間性による部分が大きく、結果として「誉められもするが、謗られもする」という名大出身教員の評価につながっている。

<期待・提案>

（大学の教職課程全般）

- ・幅広い視野を持った行動力ある（すぐに現場にかけつけられる）人材の育成。
- ・他人の痛みが理解できない・一方的なコミュニケーションしかとれない人間は教師に向いていないという自覚を持たせて欲しい。
- ・豊かな体験を通して生徒を理解する力や生徒指導力を身につけさせて頂きたい。
- ・特別支援教育についての理解を深めるカリキュラムの充実。
- ・教員になって現場で学ぶための基礎的な力を学ぶこと。
- ・コミュニケーション能力・協調性の育成。
- ・グローバルな人材。

- ・各学校と連携した、実際の現場での実践的な活動。
- ・1人の教員を育てるという強い使命感をもち、高校と大学が連携して1～2年現場で学ぶ機会。
- ・免許取得だけでなく、教職を目指す人材の育成。
- ・生徒指導や進路指導などに関する指導力の観点からの教職課程の高度化。
- ・様々な立場にある多様な教師の話しを聞く機会。
- ・素直な態度、吸収力のある頭。
- ・専門領域（免許をもつ科目）の十分な知識
- ・教科指導以外の仕事（生徒指導、面接、保護者対応、事務処理など）もあることを伝えて欲しい。

（名古屋大学の教職課程）

- ・教育において重要なことは「無知の知」であることを理解させ、いかに知識を備えているかではなく、いかに学び続けられるかが大切であることを教えて頂きたい。
- ・名大からたくさん教員を輩出してほしいので、教員採用試験に合格するための指導をお願いしたい。
- ・新しい教授・指導方法の研究や提案、科学的分析からの教育効果の向上への貢献
- ・学校改革、授業改善のリーダーとしての活躍。
- ・教育課題に対する認識の深さ、生徒の内面把握、実践的な生徒対応の一層の充実
- ・教科に関する高い能力
- ・授業スキル
- ・教職への熱意や生徒理解などの水準向上
- ・諸外国の先進的な取り組みやアイデアの発信・提供
- ・教科外指導能力の充実へと発展するときのペースメーカーの役割
- ・東海地区の教職課程をリードする役割
- ・教員としてのライフステージ（研修や主任、管理職への登用）に能力を開花させるためのカリキュラム
- ・名古屋大学の教職課程の充実改善＝この地域の教職課程の充実改善。名古屋大学の出身者からより多くの教員を輩出してほしい。
- ・先進的な取り組みを行う学校（SSH、SGH、SPHなど）での活躍
- ・愛知県公立高校の教育界をリード
- ・教育の目的や意義についてよく理解し、他の職員をリードできる教員を増やして欲しい
- ・実践的な教科指導力

- ・様々なレベルの生徒を想定した模擬授業
- ・教師としての高い倫理観や使命感
- ・学校教育活動を多面的にとらえ、各学校をリードする存在。プライドをもちつつ、プライドをコントロールする。
- ・愛知のものづくり産業を支える工業科教員を目指す学生の輩出
- ・専門的知識の習得
- ・研究方法の理解（自ら新しい知識を求める方法を理解し、よりよい授業へと結びつける）
- ・専門的な学力、能力、資質の高い名大生の受験者数が減少していることは、特に理数系では大問題。教員志望者が減らないように、教職課程履修の負担を大きくしないでほしい。
- ・農業や工業の専門教科を指導できる人材が不足している。普通科目だけでなく、専門科目の指導にも目を向けて頂きたい。
- ・教員としてあるべき姿勢や考え方を学ぶ中で、適性があるかを考えさせて欲しい。
- ・汚いことにも自ら率先して取り組んでいけるように育てて頂きたい。
- ・フレキシブルな対応と行動力
- ・人間力があり、感性豊かな人材
- ・時代を担う人材の育成にやり甲斐を感じ、明るく積極性と教育者としての自覚と使命感のある人材

<その他>

- ・回答者が教員研修機関での勤務で研修員（教員）に指示した活動：①新学習指導要領を読む（研修教員が勤務校の生徒を指導するときの姿勢につながるよう、指導員もともに学ぶ）②生徒に積極的に関わる（授業が生徒の実態にアジャストされ、授業へ興味関心をもつようになる）

### 強み

業務内容の理解・処理 青年心理などの理論 各教科の専門的内容
--------------------------------------

### 弱み

向上が求められる資質・能力	ファシリテーション能力 プレゼンテーション能力 熱意 意欲 リーダーシップ 指導力 社会人・教員としての謙虚な姿勢
	プライドが高い（保護者対応・生徒対応で足枷）。 誉められもするが謗られもする。 手を汚すことを嫌う。

### 期待・提案

	大学の教職課程全般	名古屋大学の教職課程
個々の学生への期待	コミュニケーション能力 協調性 グローバル社会に対応できる柔軟性 素直な態度  吸収力のある頭 現場で学ぶための基礎的な力 専門領域・免許を持つ科目の十分な知識 双方向的なコミュニケーションがとれる 他人の痛みが理解できる	(地域の教育界や各学校の) リーダーとしての活躍 人間力・豊かな感性 フレキシブルな対応 行動力・汚いことへも自ら率先して取り組める力 教職への熱意・積極性 教育者としての自覚や倫理観、使命感 教科指導力・授業スキル 教科の専門的知識（特に農業や工業） 先進的な取り組みを行う学校 (SSH,SGH,SPHなど)での活躍
教職課程への期待・提案	各学校と連携した、現場での実践的な活動 1人の教員を育てるという使命感  豊かな体験を通じた生徒指導力の向上 特別支援教育についての理解 多様な教師の話聞く機会 教科指導以外の職務内容の提示	研究方法の理解 教科外指導能力育成のペースメーカーとしての役割 教員採用試験に合格するための指導 工業科教員をめざす学生の輩出 教員としての適性判断 新しい教授方法や諸外国の先進的な取り組みの研究・提案 実践的な生徒対応・生徒理解の充実 教員としてのライフステージ（研修や管理職への登用など）を想定したカリキュラムの工夫 様々なレベルの生徒を想定した模擬授業



## 5. 質保証検討委員会論点整理

名古屋大学教職課程の質の向上と保証について検討するための会議を、愛知県総合教育センターと連携し、下記の通り開催した。学内準備会 8月に1回、本委員会 3月に2回開催した。

### 会議名称

平成28年度文部科学省委嘱・総合的な教師力向上のための調査研究事業  
研究総合大学としての教職課程の高度化とP D C Aサイクルによる質の保証  
教職課程質保証検討委員会

○平成29年3月9日

### 参加者

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

研究科長・教授	氏家 達夫
副研究科長・教授	植田 健男
教授	柴田 好章
准教授	生澤 繁樹

愛知県総合教育センター

所 長	磯谷 和明
研究部長	福島 宏
研修部長	平井 克明
研究指導主事	織田 剛

### 外部委員

名古屋学院大学・特任教授 森田 耕治 (名古屋大学教職課程・非常勤講師)

### 会場

愛知県総合教育センター

## 議事概要

- ・名古屋大学に期待されるのは、教科指導における専門性、質の高い授業への貢献。
- ・総合大学であるので、色々な学部それぞれの専門性と、教科横断的な幅広い知識を得る機会が十分にある。
- ・人間的な意味での総合力も期待したい。
- ・学校運営にもいずれ関わることをイメージして、早い養成の段階でも意識付けを。
- ・教職課程の授業をとる中で、いろんな学部の学生が入り混じるようなグループワークを。
- ・高校は多様であるので、母校以外の学校のことも。
- ・教員育成指標をつくることが県として求められている。全ての大学に関わり、全員に身につけるべきもの。名古屋大学としてのプラスアルファを、どう盛り込むかは今後の検討が必要な課題。
- ・「学校を基盤とする研究をリードする教員の育成」という特色はわかるが、教育実習でダウンする学生、道を変えてしまう初任者などもある。あくまで教員であり研究者ではない。学校現場に入った新任の時代から、チームとして学校を巻き込んでいって、関わっていかなければならない。
- ・教職課程のテーマをもとに学生間で議論を行う取り組みを取り入れている。単に意見を交換するだけでなく、研究的にテーマの考察を深めていくことが大切である。
- ・他大学（私立大学）では、教職のための全学的なセンター・機構を有している例も少なくなく、名古屋大学としての組織を今後どうしていくべきであるか。全学的組織の強化が必要ではないか。
- ・教員養成系大学の1大学分にも匹敵するほどの教職履修者が、名古屋大学には存在している。その規模に応じた教職課程の経営が必要となる。

○平成29年3月28日

## 参加者

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

研究科長・教授	氏家 達夫
副研究科長・教授	植田 健男
副研究科長・教授	平石 賢二
教授	中嶋 哲彦
教授	南部 初世

教授	柴田 好章
准教授	久野 弘幸
准教授	江頭 智宏

#### 外部委員

森田 耕治（名古屋学院大学）

#### 愛知県総合教育センター

所 長	磯谷 和明
研究部長	福島 宏
研究部経営研究室長	加藤 応子
研究指導主事	織田 剛
研究指導主事	外山 恵子
研究指導主事	近藤 哲史

#### 議事概要

管理職アンケートの結果などをもとに、名古屋大学の強み・弱みや、今後の課題について議論が行われた。

- ・ 教科内容に関する高度な知識や、研究的な能力は高いが、生徒理解・生徒指導の面で弱さが見られる。
- ・ 名古屋大学の卒業生は、それまでの経験の中で、困難な生徒に出会っていないこともある。
- ・ 心理学・教育学の知識をもちつつ、子どもに合わせた声かけなど、一人一人に応じた対応や学級経営に、それらの知識を活かせるようにしてほしい。
- ・ 総合大学の強みをいかして、教科や学部の枠をこえた学修や学生同士の交流を通して、総合的な見方を身につけてほしい。
- ・ 企業・公務員のインターンシップは名古屋大学では充実しているが、教職志望者を対象としたキャリア形成支援が求められる。
- ・ 教職課程の経営のために、専門的な全学組織・機構の整備が求められる。

## 6. 開発的調査研究成果

### (1) 教職科目担当者を対象としたセミナー（試行的FD）の開催

試行的なFDの機会として、教職科目担当者を対象としたセミナーを開催した。教職に特化したFDの活動は、これまで取り組まれてこなかったため、今後このような機会を設けることの意義や課題を明らかにすることができた。

#### 名古屋大学教職課程に関するセミナー

実施日 平成29年1月6日（金）

実施主体 平成28年度総合的な教師力向上のための調査研究事業

「研究総合大学としての教職課程の高度化と

PDCA サイクルによる質の保証」

時間・内容

10:00～12:00 第1部「名古屋大学教職課程がめざす教師像」

13:00～15:00 第2部「名古屋大学の教職課程の現状と課題」

実施場所 名古屋大学教育学部棟2階 第3講義室

参加者 10名

### (2) 教職志望の大学院生を対象とした「教育実践研究連続セミナー」の開催

教職を志望する大学院生向けに School Based Action Researcher としての力量の向上を目的としたセミナーを開催した。来年度以降の大学院生向けの授業の開講のための基礎資料を得ることができた。

第1回 平成29年1月29日 「比較授業分析セミナー」

第2回 平成29年2月4日 「アクティブラーニング研究セミナー」

第3回 平成29年3月18日 「教師として学び続ける意味」

## 教職をめざす名大院生向けセミナー

 名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY  
教育発達科学研究科  
tedu@educa.nagoya-u.ac.jp

### 教育実践研究連続セミナー

豊かな学びの実現のために

School Based Action Researcher 養成講座 全3回

“授業”を研究する

### 第1回 平成29年1月29日(日) 教育学部

13:00~13:30	オリエンテーション	1F	第2講義室
13:30~16:30	比較授業分析セミナー	2F	第3講義室

教育発達科学研究科では、名大の教職課程の高度化と質保証の仕組みづくりをめざして、平成28年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」を受託し、研究プロジェクトを実施しています。

その一環として、大学院生に向けた教育実践研究連続セミナーを実施します。このセミナーでは、学校を基盤とする研究を推進し、先導的な教育実践を開発するリーダーとなる School Based Action Researcher を養成することを目的としています。

第1回のセミナーは『比較授業分析』モンゴルの授業の記録の分析を通して学びの本質を考える  
海外の授業を分析すると、自明視されていた日本の授業の特質が顕在化します。  
モンゴルと日本からの教員も参加します。

次回予告 第2回 2月4日

アクティブ・ラーニング研究セミナー

学部生も参加可。学部・研究科は問いません。  
教員採用試験対策の講座ではありません。  
実践力・研究力の向上をめざす講座です。

## 教職をめざす名大院生向けセミナー

 名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY  
教育発達科学研究科  
tedu@educa.nagoya-u.ac.jp

### 教育実践研究連続セミナー

豊かな学びの実現のために

School Based Action Researcher 養成講座 全3回

“授業”を研究する

### 第2回 アクティブ・ラーニング 研究セミナー

平成29年2月4日(土) 13:30~16:30

豊田講堂 3F 第1会議室

教育発達科学研究科では、名大の教職課程の高度化と質保証の仕組みづくりをめざして、平成28年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」を受託し、研究プロジェクトを実施しています。

その一環として、大学院生に向けた教育実践研究連続セミナーを実施します。このセミナーでは、学校を基盤とする研究を推進し、先導的な教育実践を開発するリーダーとなる School Based Action Researcher を養成することを目的としています。

第2回のセミナーは『アクティブ・ラーニング 研究セミナー』主体的で対話的で深い学びを促進するための方法を学びます  
ゲスト講師：水野 正朗 氏  
名古屋市立桜台高等学校 教諭  
本学大学院博士後期課程修了 博士(教育学)

次回予告 第3回 3月中旬予定

学校を基盤とする教育実践研究

学部生も参加可。学部・研究科は問いません。  
教員採用試験対策の講座ではありません。  
実践力・研究力の向上をめざす講座です。

## 教職をめざす名大院生向けセミナー

 名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY  
教育発達科学研究科  
tedu@educa.nagoya-u.ac.jp

教育実践研究連続セミナー 全3回  
School Based Action Researcher養成講座

豊かな学びの実現のために  
“授業”を研究する

### 第3回 教師として学び続ける意味

平成29年3月18日(土) 13:30~16:30

教育学部 2F 第3講義室

教育発達科学研究科では、名大の教職課程の高度化と質保証の仕組みづくりをめざして、平成28年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」を受託し、研究プロジェクトを実施しています。

その一環として、大学院生に向けた教育実践研究連続セミナーを実施します。このセミナーでは、学校を基盤とする研究を推進し、先導的な教育実践を開発するリーダーとなる School Based Action Resarcher を養成することを目的としています。

青年海外協力隊や総合的な学習の授業開発など、教師として多彩な経験をもつ高校教員をお招きし、教師として学び続ける意味について考えていきます。

愛知県立名古屋西高等学校教諭

ゲスト講師： **向井 昌紀 氏**

(理学研究科博士前期課程修了・教育発達科学研究科科目等履修生)

学部生も参加可。学部・研究科は問いません。

教員採用試験対策の講座ではありません。  
実践力・研究力の向上をめざす講座です。

## 7. まとめ

本調査研究事業では、研究総合大学としての教職課程の高度化とP D C Aサイクルによる質の保証をめざし、実証的、開発的、理論的な研究を実施した。以上をまとめ、名古屋大学の教職課程の改善のための指針として、以下の点が指摘できる。

○研究大学としての強みを生かし、教育研究上の課題を解決できる研究的力量を高め、School Based Action Researcher として活躍できることを追求していくことが望まれる。

○総合大学としての強みを生かし、専門教科の見方・考え方にとどまらず、教科横断的で総合的な視野を持てるようにすること、そのために教職課程の中でも学部を超えた交流を行うことが望まれる。

○名古屋大学が学術憲章で謳う「勇気ある知識人」の理念は、今日の複雑化する学校教育現場の課題の解決に資する教員を育成するための指針となり得る。

○教科に対応する高度な専門知識という強みを生かしながら、多様な背景を有する生徒一人一人に対応出来る総合的な力量を高められるようにするとともに、公教育を担う専門職としての職業倫理を身につけられるようにすることが課題である。

○全学的な連携・推進・支援により、教職課程全体の質の向上と保証を行うために、教職課程経営のための専門性の高い組織や機構の整備が望まれる。

今後これらの課題に取り組みながら、教職課程の改善を継続的に進めていく必要がある。

---

文部科学省委託

平成28年度 総合的な教師力向上のための調査研究事業  
教職課程の質を継続的に保証できる仕組みの構築 成果報告書

研究総合大学としての教職課程の高度化と  
P D C A サイクルによる質の保証

名古屋大学大学院教育発達科学研究科

平成29年3月

---